

FUKUOKA TOKUSHUKAI HOSPITAL

TEAM

特集

生命の平等を
貫く最前線

救急センター

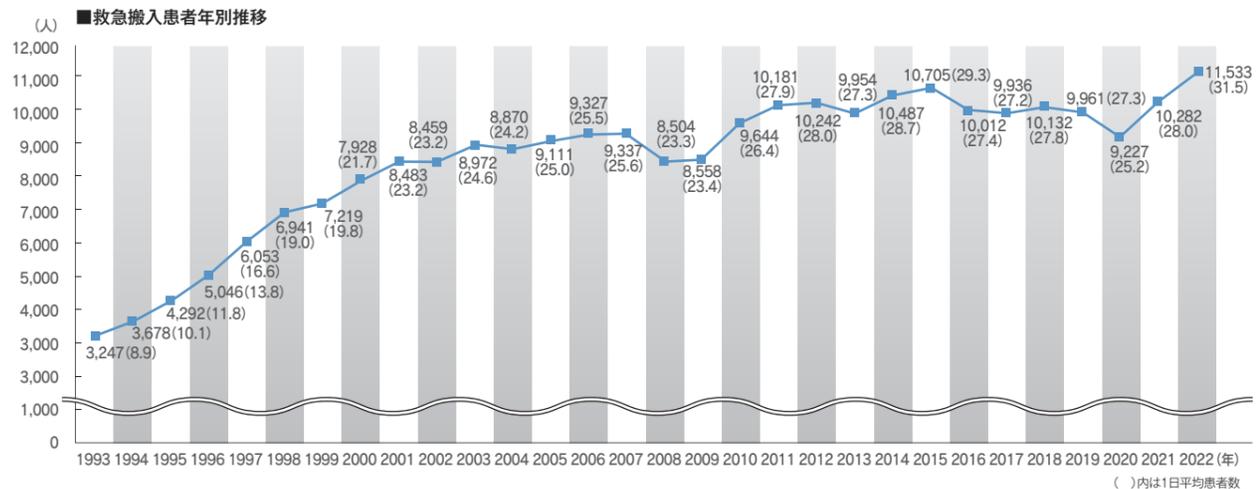


あらゆる救急医療ニーズに向き合う。
私たちが「FUKUOKA ER」。

11,533件

2022年救急搬送件数/2022年救急科Walk-in患者診療数12,932人

1993年からER型救急システムを導入し約30年。
一貫して24時間365日の救急医療ニーズに応え続けています。



福岡徳洲会病院の救急医の取り組み

内科救急

高齢社会においては内科救急疾患の割合が多く、内科救急医療についての幅広い知識を必要とします。細菌性髄膜炎、糖尿病性ケトアシドーシス、重症喘息などの重症度も緊急度も高い疾患を扱う事になります。また感染症治療のレベルアップを図り、グラム染色や抗酸菌染色も救急医自身が行います。

脳卒中/心疾患

ERでは、脳梗塞や心筋梗塞における血管内治療や血栓溶解療法(t-PA)を迅速に開始する事が非常に重要です。脳神経外科医や循環器内科医をサポートし、患者さんの予後が最大限改善する事を目指しています。くも膜下出血に対する鎮静・鎮痛、脳卒中全般に対する気管挿管と人工呼吸器管理、心不全に対する非侵襲的呼吸器管理なども積極的に行っています。

急性腹症

当院は絞扼性腸閉塞や消化管穿孔や虫垂炎などの一般外科における救急疾患の患者さんが多く来院されます。急性腹症の高い診断能力が求められます。

産科救急

24時間産婦人科医が常駐し、NICUで新生児の入院管理も行っています。そのため産科疾患に関連した救急患者さんも多数来院されます。専門医と連携を取る事はもちろん、妊婦の外傷などでは救急医が主体的に診療を行っています。

マイナーエマージェンシー

鼻出血、鼻腔内異物、緑内障発作、アルカリ眼症、精巣捻転、ダニ咬傷、釣り針刺傷、マムシ咬傷、ボタン型電池誤飲などの救急初期に対応しています。



特集 生命の平等を
 負く最前線 救急センター



1秒でも早い治療開始のために。 充実した施設と24時間の医療体制を常に強化。

ERIには救急医が常駐し、あらゆる患者さんの初期治療にあたります。夜間は、内科・外科・小児科・循環器内科・脳神経外科・産婦人科・心臓血管外科と多くの診療科が院内で待機して相談を受ける体制を整えています。また整形外科・形成外科・消化器内科・麻酔科・泌尿器科・眼科・放射線科・耳鼻咽喉科などの診療科は院外のオンコールで夜間呼び出しに対応しています。また集中治療室には集中治療医が常駐し、各診療科と共に重症患者の集中治療管理を行っています。このため福岡徳洲会病院は、あらゆる救急疾患に対応する事が可能な施設であり、長く春日市・大野城市・那珂川市・筑紫野市・太宰府市・糟屋地域・福岡市南部などの救急医療を支えてきました。

<p>救急搬入 11床 精神科患者用 防音室1部屋</p>	<p>救急ケア 病床4床</p>
<p>感染症 患者用 陰圧個室 1部屋 除染スペース2個</p>	<p>外来診察室 6部屋</p>
<p>観察室 6床</p>	<p>ヘリポート</p>

救急医は、あらゆる疾患に対応し、 急変を見逃さないスペシャリスト。

当院の救急医はERを主戦場とし、RRS (Rapid Response System) などの院内の急変対応、消防ワークステーション隊としてのプレホスピタル医療、集中治療管理、災害医療支援などの多岐にわたり能力を発揮しなければなりません。救急医療は、地域医療の要だと私たちは考えています。

地域や社会のために、攻める救急医療を

令和4年度から救急センター長を拝命いたしました。福岡徳洲会病院は全国有数の救急搬送件数を受け入れる病院です。ここで積極的な「攻める救急医療」を実行していくためには十分な体力と忍耐力が必要になります。全国から集まる若手救急医が我々の施設で存分に力を発揮してくれています。今後も救急を専門とする医師を更に集めていく所存です。地域貢献を第一の目標とする「地域のER」として、質の高い救急看護師・病院救急救命士・救急専属薬剤師・専属事務員を育成していきます。また災害医療・国際医療支援活動・僻地離島医療・在宅医療に関わり、社会に貢献することを目指します。

救急センター長 救急調整室責任医師 鈴木 裕之 (弘前大学出身)

■日本救急医学会救急科専門医 ■麻酔科標榜医 ■救急IVR担当医 ■統括DMAT ■TMATコアメンバー



救急科/部長
永田 寿礼
 自治医科大学出身

■日本救急医学会救急科専門医
 ■日本外科学会認定医
 ■救急科専攻医プログラム責任者



救急科/医長
織田 兼知
 熊本大学出身

■日本内科学会認定内科医
 ■日本内科学会総合内科専門医
 ■日本内科学会指導医



救急科/医員
宮井 仁毅
 産業医科大学出身

■日本内科学会認定内科医
 ■日本内科学会総合内科専門医
 ■日本内科学会指導医
 ■日本糖尿病学会糖尿病専門医
 ■日本消化器病学会消化器病専門医



救急科/医員
松井 昂介
 新潟大学出身

■日本内科学会総合内科専門医
 ■日本感染症学会感染症専門医



救急科/医員
濱 義明
 長崎大学出身

■日本救急医学会救急科専門医
 ■日本脳卒中学会専門医
 ■J3学会承認脳血栓回収療法実施医
 ■頸動脈ステント留置術実施医
 ■日本病院総合診療医学会
 病院総合診療医
 ■救急IVR担当医



救急科/医員
大方 雄司
 大分大学出身
 ■EM Alliance 文獻班



救急科/医員
水野 慶
 産業医科大学出身



救急科/医員
町田 崇
 鹿児島大学出身



救急科/医員
阿部 幹也
 千葉大学出身



救急科/医員
神保 智之
 福島県立医科大学出身



TEAM ER

チーム医療

救急看護認定看護師

先駆ける、次代を育てる。

古くからトリアージナースが配置され、救急診療においても小児・高齢者・妊婦・内因性疾患・外因性疾患などあらゆる症状に対して迅速な対応を心がけ、質の高いケアを目指しています。また福岡徳洲会病院のERは、救急認定看護師を多く輩出し、救急看護師のリーダーを育てる養成機関としても機能しています。

救急外来 白井 耕志



病院救急救命士

救命から災害医療まで幅広く。

令和3年より救急救命士の採用が開始され、10名が在籍しています。病院救急救命士の所属部署は、「救急調整室」として独立しています。当院の救命士は、心肺停止症例に対する静脈路確保、エピネフリン投与、ショック症例に対する静脈路確保、低血糖に対するブドウ糖投与などの救急救命処置をERで積極的に行っています。また、救急隊からの申し送りをうける業務、外来患者のトリアージ業務、蘇生講習会 (ICLS) のインストラクターなど、その業務は多彩です。また救命士の多くが、災害医療活動に携わるべくTMAT隊員となっています。救急調整室では3年間の教育課程を敷いており、看護部の研修参加・学会での発表・自動車学校での病院救急車の運転の練習なども行っています。

救急調整室 内田 寿



コメディカルの質と連携力が強み。 最先端のチーム医療を目指して。

30年続くER型救急病院としての歴史から、コメディカルの質は常に高く保たれ、

特にER看護師は救急医の信頼のおけるパートナーとして活躍してきました。

また病院救急救命士、ER専属薬剤師、専属の医師事務作業補助者などが常駐し、医師からのタスクシフト・タスクシェアリングも進んでいます。

医師事務作業補助者

患者さんと医師をつなぐために。

医師事務作業補助者は医師がどのような病歴を聴取したいかを把握し、救急隊や付き添いのご家族からスムーズに情報の聴取を行う補助者の役割を担います。また救急患者台帳やホワイトボードの管理など細部にわたる取り組みにより、医師をサポートする仕事です。

医療補助課 松原 晴香



ER専属薬剤師

一人ひとりに一貫した治療を。

ER専属薬剤師は常用薬のリストアップ、急性薬物中毒の情報提供、ER内の薬剤の管理など多岐にわたる活動を行っています。また集中治療室の専属薬剤師と人材を兼任する事により一貫した治療の提供に努めています。

薬剤部 矢野 洋平



重症患者診療

ICU入室者数

1258例

ICU特殊治療件数/令和4年度

件数(人数)		件数(人数)		件数(人数)	
項目	件数	項目	件数	項目	件数
TAVI	37	人工呼吸器	291	CHDF	66
ダウインチ手術	81	NPPV	75	PMX-DHP	14
PCPS	24	NO療法	8	PE(血漿交換)	4
Impella	17			PA(血漿吸着)	2
IABP	63	脳低温療法	4	DFPP	1

心肺停止患者受け入れ数

280名

ER型救急とは、軽症から重症まで全ての救急患者を受け入れ、治療を行っていくスタイルの救急医療です。

このため重症患者も多く来院します。重症多発外傷、くも膜下出血、急性大動脈解離、腹部大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞、食道静脈瘤破裂、消化管穿孔、絞扼性腸閉塞、切断肢の再接着などの重症患者対応を積極的に行っています。

救急・集中治療センターとして集中治療部の医師と人的交流を常時行っており、集中治療医がER診療に、救急科医師が集中治療に携わる体制を構築しています。



チームの総合力で担う 緊急アンギオ、血管内治療 (IVR: Interventional Radiology)

脳卒中は脳神経外科、心筋梗塞は循環器内科で血管内治療を行います。それ以外の緊急の血管内治療については、救急科・総合診療科・消化器内科・外科などでチームを組んで治療を行っています。特に出血性ショック症例に対して救急医は中心メンバーとして活動しています。また動脈瘤などの待機的な治療については放射線科と協力して、救急医も治療に参加しています。

主な対象疾患

- ・多発外傷（肝損傷、骨盤骨折、脾損傷など）
- ・消化管出血（憩室出血、出血性十二指腸潰瘍など）
- ・内臓動脈瘤破裂（SAMや急性脾炎後仮性動脈瘤破裂など）
- ・肝細胞癌破裂
- ・SMA塞栓症
- ・産後大出血
- ・仮性脾嚢胞破裂
- ・腎血管脂肪腫破裂



地域や国境を越えて必要な場所へ。
災害医療活動に取り組んでいます。

特集 生命の平等を
貫く最前線 救急センター

災害派遣

徳洲会グループは
TMATの最大支援団体です。

地域災害拠点病院である当院には、11名の日本DMAT隊員（統括DMAT2名）、6名の福岡県DMAT隊員が在籍しています。また徳洲会グループはNPO法人TMATの最大の支援団体であり、当院も28名のTMAT隊員を保有しています。TMATは国内、海外を問わず、過去に多くの災害に隊員を派遣してきました。福岡徳洲会病院は、救急医療と僻地離島医療という総合診療の基幹病院として、今後も災害医療活動の可能な隊員を積極的に養成し、派遣していきます。

当院の過去の災害派遣実績 (2004年～)

2004年	新潟中越地震
2004年	インドネシア・スマトラ沖地震
2005年	福岡西方沖地震
2011年	東日本大震災
2015年	ネパール地震
2016年	熊本地震
2017年	九州北部豪雨（朝倉）
2018年	ロヒンギャ難民支援
2018年	西日本水害
2018年	インドネシア・スラウェシ島地震
2019年	九州北部豪雨（佐賀）
2019年	台風19号（長野、宮城）
2020年	熊本豪雨
2023年	トルコシリア大地震

防災訓練・ セミナー開催

病院防災にも
積極的に取り組んでいます。

当院は、年1回の大規模な防災訓練、地域医師会と協同した防災訓練、災害時の保健福祉に関わるBHELPコースなどを開催しています。特に200名規模の大規模な防災訓練を実施している医療機関は少なく、先端的な防災システム作成に取り組んでいます。

迅速性が問われる医療。
国内外の災害派遣にも貢献しています。

2015年よりERに救急ワークステーション隊が設置されました。春日・大野城・那珂川消防本部の救急隊がERで病院研修を行いながら待機し、重症の救急要請があった場合には救急医が同乗して現場に向かいます。ワークステーション隊は心肺停止症例に限って活動している地域もありますが、春日・大野城・那珂川地域では多発外傷・胸痛・意識障害などの重症を疑う症候においても、活動を実施しています。救急医は救急隊の指導を主な任務としていますが、ドクターカーとしての機能も備えているため必要時には気管挿管・トロッカー挿入・薬剤投与などの処置を現場で行いながら、福岡徳洲会病院へ搬送する活動を行っています。



地域の救急隊と共に動く プレホスピタル



救急医を育てることも、 未来を見据えた重要な仕事です。

多彩な経験を積み上げて
3年で救急科専門医へ

自由度が高い救急科専門研修プログラム
福岡徳洲会病院は救急科専門研修プログラムの
基幹病院であり、3年で救急科専門医を取得可能
です。自由にプログラム作成を出来る事が特徴で
あり、36ヶ月のうち18ヶ月間は他科や他院で研
修を行う事ができます。そのうち3ヶ月間は離島関
連施設での地域医療研修になります。

連携基幹施設

久留米大学高度救命救急センター
岸和田徳洲会病院救命救急センター
産業医科大学病院救急部
名古屋徳洲会総合病院

離島関連施設

徳之島徳洲会病院
名瀬徳洲会病院(奄美大島)



【専攻医プログラムの例】

1 完成されたER医を目指すA医師

専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
・ER ・整形外科 ・眼科	・他院救命救急 センター	・ER ・小児科 ・離島研修

2 将来は開業を目指す、 家庭医志向のB医師

専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
・ER ・離島研修	・総合内科 ・当院ER/ICU	・整形外科 ・消化器内科 ・ER

3 救急科専門医取得後に、消化器 内視鏡専門医取得を目指すC医師

専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
・ER	・ER ・消化器内科	・消化器内科 ・ER当直 ・離島研修

4 救急科専門医と麻酔科標榜医、ほぼ 同時に両方の取得を目指すD医師

専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目
・ER ・離島研修	・麻酔科	・ER ・麻酔科(週1回)



緊急対応を身につけ、 即座に体が動く医師を育てたい。

特集 生命の平等を
闘く最前線 救急センター

安全な環境とERで学ぶ研修医

当院は臨床研修必修化以前から研修医のスーパーローテーションを行ってきました。その研修の最大の特徴はERでの初期診療です。研修医は、救急車とWalk-inの両方の患者さんに対する診療のファーストタッチから関わる事になります。2年目研修医が1年目を教育し、救急科専攻医が2年目研修医を教育する屋根瓦方式を長く行ってきています。また救急医が24時間常駐しているため、研修医の考える病態や治療方針を常に救急医と相談する事が可能です。このため安全な環境で初期診療のレベルアップを行う事ができます。救急医に治療方針を相談する際に「決断する」という練習ができるわけです。我々は医師になりたての大事な時期に多くの症例を経験し、救急対応を身体に植え付ける事が重要だと考えています。初期研修を終えて救急医療の現場から離れたとしても、目の前で人が倒れているのを目撃したときに即座に対応を開始できる様な医師を育てる事を目標にしています。

当院の研修医がマスターする手技の例

- 定型問診 ● 定型診察技法 ● 気管挿管 ● CV確保 ● Aライン挿入
- シース挿入 ● 腰椎穿刺 ● 胸腔ドレーン(トロッカー)挿入 ● 胃洗浄



〈研修医1年次のご紹介〉



安達 理沙



井上 喜仁



川畑 康太



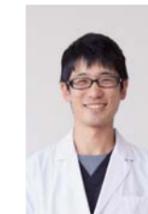
倉岡 佑実



後藤 優太



杉本 一平



武田 真太郎



中尾 菜



永田 大輝



野田 啓介



原 宗佑



松岡 景馬



山川 耕平



横山 理子

仲間と共にメリハリのある研修生活を送っています。

1学年に十数名の初期臨床研修医が在籍しており、仲間と共に研修生活を送る事ができます。またOn/Offのはっきりしているところも当院の臨床研修の特徴であり、仕事中は非常にきつい研修生活ですが、休日はしっかり休む事ができます。

研修医2年次 奥 哲郎先生





医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

〒816-0864 福岡県春日市須玖北4丁目5番地
TEL.092-573-6622(代表) FAX.092-573-1733

<https://www.f-toku.jp/>

福岡徳洲会病院 検索

外科 新患受け入れ時間延長のご案内

日頃からご紹介いただき、誠に感謝申し上げます。令和5年8月より外科のご紹介について受け入れ時間を延長し対応させていただきます。

◆月曜日～金曜日/9時00分～16時00分 ◆土曜日/9時00分～12時00分 ※左記以外、緊急のご紹介はお電話にて対応いたします。

地域連携支援センター長 柳澤 純

紹介の事前予約についてのご案内

診療情報提供書(紹介状)をお送り下さい。

医療連携室直通FAX **0120-218-489**

【予約受付時間】9:00～16:00(平日)
9:00～11:30(土曜) 日祝日不可
紹介状に受診希望日をご記入ください。

FAX到着後、20分以内に予約日時を決定し、
「紹介受付票」をFAX送信いたします。

診療科によって、
予約日時の決定が後日になる場合もあります。
その際は、紹介受付票の発行はせずに
電話対応とさせていただきます。

「紹介受付票」を患者さんへお渡しください。

予約当日は、紹介状(原本)、紹介受付票、
健康保険証をご持参いただきますようお願いください。
※予約受付票を発行していない場合を除く

現在、事前予約を受付している診療科

皮膚科/眼科/心臓血管外科/ペインクリニック/放射線治療/外科/乳腺外科/下肢静脈瘤外来/歯科口腔外科

表紙

当院にはヘリポートがあり、
遠方からの救急患者様を受け入れています。

総合外来予定表は
ホームページをご参照ください。
2023-10-TEAM004

